

川越ロータリークラブ 会報

No.4



2025年7月22日 第3532回例会 会場：川越プリンスホテル5階

会員数：105名 免除出席者：2名 正会員出席者：53名 出席者：55名 早退：1名 出席率：52.38%

プログラム

点鐘（12：30）／（第4例会）手に手つないで、R-O-T-A-R-Y／ビジター・お客様紹介／卓話講師紹介／会長の時間／幹事報告／委員長報告／ニコニコボックス／出席報告／卓話／点鐘（13：30）〈司会：山崎S A A〉

会長の時間

2025-26年度会長 吉澤 徳安

本日は昨日終わったばかりの選挙について一言と、奉仕についてハリウッド映画「戦場のおくりびと」を参考にして話したいと思います。

参議院の選挙がありました。選挙後に石破総理がテレビにて国難の時代だと発言されました。国難という言葉は難しい言葉です。後藤新平という男爵で政治家だった人が使っております。今年、昭和百年、戦後80周年に当たります。百年前に普通選挙法が制定され、25歳以上の納税者が選挙に参加できました。これに合わせて後藤新平は講演を始め、一年間で講演回数260回、政党から離れて個人のお金で行いました。政治の倫理化としてこの方が行った事は奉仕であります。百年経った今でも皆同じ事で悩んでいるのかなと思いました。

「戦場のおくりびと」はハリウッド映画で2009年の作品です。イラクで亡くなった軍人を故郷へ送り、それに関わった人を映画化した作品です。亡くなった方を丁重に扱い、遺体は勿論持ち物まで綺麗にされ納棺される。空輸される際も丁重なもてなしを受け、貨物室に運ばれる際には作業されていた方全員が整列して運び込まれる。Serviceする側から考えると奉仕という事ですが、受け手側からすると、されたことに対して尊敬、敬意が払われるという事になります。



軍人に対して「Thank you for your service」というのが自然に出るとというのがServiceの精神です。我々でいうと公僕、公共事業や公務、その行為がリスペクト、尊敬、敬意を受けるにあたりするからという事になります。この観点からServiceといのは考えてみると奉仕と訳するのが適当なのか、精神的な面、心に響いて来るかどうかという事です。この事について、これから39回の会長の時間でお話したいと思いますので、お付き合いいただければと思います。

幹事報告

2025-26年度幹事 高橋 哲彦

- ・配布物 会報、地区大会組織表
- ・次週 7/29 夜間例会、18:00 点鐘
- ・9/20 地区新会員（入会5年未満）研修セミナーご案内（回覧）



委員長報告

国際奉仕委員会 沢田委員長

- ・9/20 姉妹ロータリークラブ台北西北ロータリークラブ65周年記念式典PR

親睦委員会 津田副委員長

- ・7月のお祝い



会員誕生

糸原恒久
橋本定寛
西澤堅
栗林茂
福岡央
島村拓史
小川修一郎
小橋誠
吉岡明寛

会員配偶者誕生

鈴木健二・鎮恵
石井成人・もと子
佐藤道晴・裕子
沢田通・裕美子
神谷勉・京子
和田喜勝・明子
鈴木崇生・亜矢子
真鍋隆彦・暁子

結婚記念

真鍋隆彦
吉岡明寛
川野邊智聡



地区大会実行委員長 山田（哲） 実行委員長

・地区大会組織図発表と協力依頼

親睦委員会 津田副委員長

・次週夜間例会 PR

ニコニコボックス

●国際ロータリー第2570地区ロータリー財団奨学生中村悦子様、本日の卓話よろしくお願ひします。楽しみにしております。<会長、幹事>

●ロータリー財団奨学生、中村悦子さんようこそ川越ロータリークラブへ！！本日の卓話よろしくお願ひ致します。<相原、西澤、山崎（共）、小杉、藤井、島村、坂口、馬場（常）、西川、小橋、小川、石井、和田（喜）、和田（尚）、戸口、齊藤（智）、野溝、長岡、中野（文）、廣瀬>

●いよいよ地区大会の準備が始まります。川越クラブ一丸となって頑張りましょう。<山田（哲）、坂口、水村、小川、小林、廣瀬>

●川越運動公園陸上競技場でラグビーが出来ることになりました。セコム、ヤクルト等のプロリーグの試合が今後行なわれます。これは小杉会員の情報により市が施行することになりました。<西澤、小杉、神谷、坂口、水村、馬場（常）、小川、的矢、川野邊、長瀬、鬼頭、齊藤（智）、近藤、野溝、中野（文）、廣瀬、井上>

●出席報告を先週は後期高齢者の水村さんが発表されましたが、本日は高齢者の高橋が発表致します。聞き取りづらい所があるかもしれませんがご容赦下さい。<高橋（徹）>

●早退1名（敬称略）合計50,000円

卓話

講師紹介：島村財団・米山記念奨学統括委員長

講師：中村 悦子（ホスト：羽生 RC）

2024-25年度グローバル補助金奨学候補生

【母子と健康】

子供のころ荒れ果てた大地に裸足で立っている女の子の写真に大きな衝撃を受けました。それをきっかけに国際協力への道を目指そうと思

いました。勉強している内に、特に苦しい目に合っているのは女の子、女性だと学びました。

女の子や女性の命が軽視されています。若年で望まない結婚をさせられたり、性暴力の被害や家庭内暴力の被害にあったりしています。紛争、災害、貧困地域ではもれなくあります。特に女性が命を多く落とすお産で何とか力になれないかと思い助産師になりました。



助産師の徳永瑞子さんに出会いアフリカや紛争地域へ行くことを勧められ、国境なき医師団、JICAの一員として派遣され、様々な地域にて活動しました。

ロータリー財団との縁は山本詩子助産師と出会い、ロータリークラブの社会奉仕、国際理解、国際平和に共感した事がきっかけです。

世界の保健状況として、妊娠から出産後42日までの死亡者はアフリカ中央から西に向かった地域と中東が多くなっています。年間28.7万人1日750人の女性が亡くなっています。

生まれてから28日目までに死亡する率が高いのはアフリカ、パキスタン、アフガニスタン、そして中東となっています。

母子共に早産、お産時の状況、そして感染症、この3つで亡くなる事が多いです。日本では、この3つで亡くなる事は殆どありません。予防や治療ができるからです。

アフガニスタンやナイジェリアにてお産で出会った人達との出会いは忘れられない体験が多くありました。フィスチュラという症状の女性、夫と子供が過激派に殺され、その過激派から性暴力を受け妊娠し、お産した女性から感謝された時、どれほど苦しい思いをして来たのかと感じました。

奨学生として何を自分がしたいかという、母子共に多く亡くなる地域には、高価な治療機器や高度な医療は最も求められるものではありません。必要なのは、基本的な学生時代に学ぶような当たり前の事が出来る助産師を育てる事と考えます。それだけでも、75%の母子を助けられると言われていています。なぜ助けられないのか、それが私が進学を目指した理由です。解決するための障壁は多々ありますが解決に向けて大学院を目指しています。